

2016年度

# 第1回 保育講演会

テーマ 子どもの豊かな感性と共に  
～センス・オブ・ワンダーが語りかけるもの～

講師 レイチェル・カーソン日本協会 会長 上遠恵子先生

去る6月7日(火)第1回講演会が開催されました。上遠先生は、前回の講演から3年ぶりにご来園されました。生物学者であり、作家のレイチェル・カーソンの作品を翻訳し、紹介することを、ライフワークとされています。ご自身の幼少期の体験、とある子どものエピソード、朗読仕立てのドキュメンタリー映画「センス・オブ・ワンダー」の映像、そして時折ユーモアを交えながらお話をくださいました。穏やかで優しいたたずまいの上遠先生、生き活きと語られる上遠先生の若々しい姿に感銘を受けました。おとなになって忘れてしまった感性をよみがえらせ、子どもと過ごす親として貴重な「今」を考えさせられる素敵な時間でした。



参加者 78名

レイチェル・カーソンの代表作『センス・オブ・ワンダー』には、自然と触れ合い・向き合い感性を養うことの大切さが、美しい言葉で記されています。これらは、彼女自身が幼い頃、美しい自然と触れ合ってきたからこそ生まれたもので、自然の大切さに気づかされる作品です。

## 『センス・オブ・ワンダー』に

“子どもたちの世界は、いつも生き生きとして新鮮で美しく、驚きと感激にみちあふれています。残念なことに、わたしたちの多くは大人になるまでに澄みきった洞察力や、美しいもの、畏敬すべきものへの直感力をにぶらせ、あるときはまったく失ってしまいます。”とあります。

人は生まれながらに不思議だなと思う気持ちがあります。その気持ちをもって自然を探検することは、雨の音・雷の轟き・小川のせせらぎなどの音や、生き物の鳴き声・姿、木々の葉や花の色・においを実際に触れることにより、感性が豊かになり知識へと花開くことにつながります。

大人である私たちは、こちらの都合で子どもが泥んこになる楽しみなどを取り上げていませんか？ 子どもたちと一緒にそれを楽しむことを忘れていませんか？

知識ばかりを押しつけていませんか？

また、自然には自然の流れ・リズムがあるように、子どもには子どもの流れ・リズムがあります。「早くしなさい」と急かしたりしていませんか？

幼少期に自然と触れること・不思議を体験し考えることは、命と向き合うこと・人間も自然の一部だと気づくこと。また、地球の美しさと神秘に気づくことにつながります。

その心は、生き生きとした精神力を養い豊かなものとなります。

CGなどの映像ではなく本物に直に触れる大切さ。大自然でなくていい。身近な小さな自然であってもその感性はみがくことができます。

私たち大人も目の前の子どもを見るのではなく、子どもの見ているものに目を向ければ同じ感性を共有することができるのです。

最後に、上遠先生が『センス・オブ・ワンダー』のメインテーマがここに書かれているとお話くださった本文を紹介します。

子どもにとっても、どのようにして子どもを教育すべきか頭をなやませている親にとっても、「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではないと固く信じています。

子どもたちがである事実のひとつひとつが、やがて知識や知恵を生み出す種子だとしたら、さまざまな情緒や豊かな感受性は、この種子をはぐくむ肥沃な土壌です。

幼い子ども時代は、この土壌を耕すときです。

美しいものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知なものにふれたときの感激、思いやり、憐れみ、賛嘆や愛情などのさまざまな形の感情がひとたびよびさまされると、次はその対象となるものについてもっとよく知りたいと思うようになります。そのようにして見つけた知識は、しっかりと身につきます。

消化する能力がまだそなわっていない子どもに、事実をうのみにさせるよりも、むしろ子どもが知りたがるような道を切りひらいてやることのほうがどんなにたいせつであるかわかりません。

レイチェル・カーソン著 「センス・オブ・ワンダー」より

人生は「出会い」であると言われますが、出会いには人との出会いだけではなく、様々な出会いがあります。上遠先生は生前のレイチェルカーソンには会われてはいませんが、レイチェルの著書に出会われ、著書を通してレイチェルの生き方と思いと共に歩まれておられます。

私はレイチェルの著書を通して、上遠先生を知りました。キリスト教新聞に上遠先生のことが載っており、連絡をさせていただき、出会わせていただいたのです。2001年のことです。

これも神さまの導きですね。

幼稚園では6回目の講演会になりますが、上遠先生はいつも変わられません。

「センス・オブ・ワンダー」を伝えるという強い思い…それによって、いつも生き活きと若々しいのだと感銘を受けました。

今の世の中、バーチャルな世界があり、CGも多く、何が本物かわからなくなっています。

名前や生態は知っていても、それはパソコン上のこと。というケースも少なくはないでしょう。実際に触ってみた感触、においなどがわからない。そのような体験がないので、命を大切にできないということもあるのではないのでしょうか。

じっとすわっている子どもの目の先には、流れている水があったり、小さなアリがいたり…

子どもたちの世界には、「みてみて」「なんでだろう?」「不思議だな」ということがたくさんあります。子どもを見るのではなく、子どもが何を見ているのかを見つめ、一緒に感じていくことのできるおとなになりたいものです。

そして、アンテナをはりめぐらせ、わくわくドキドキすること  
にたくさん出会って、おとなも子どもも「今」この時を大切に  
していきましょう。

(奈良亜樹子)



## 参加された方より

### あやめ赤 綾部由紀子

子育てをしているこの時期に、「センス・オブ・ワンダー」の本に出会えた事、上遠先生のお話をうかがえた事に感謝しています。今のこの時期が、かけがえのない素晴らしい時間であるという事に改めて気付かされました。子供の感じる力を大切にして、一緒に感動し、喜べるような母親でありたいと思いました。

### あやめ赤 植竹 愛

2回目の講演会でした。私は幸運なことに2回とも、我が子が年少さんの時に参加できています。それにもかかわらず、上遠先生のお話のなかで、心にずしんとくる反省点がたくさんありました。落ち込みながらも、先生の優しい声につつまれ、育児をもっともっと楽しみたい、子どもと一緒に遊びたい、という気持ちでいっぱいになりました。長男が大きく成長するにつれ、次男の「今この時が貴重な時だ」と心から思う今日この頃です。ありがとうございました。

### あやめ赤 江口 春花

同年の子と比べてはいけないと思いつつ、つい、いろいろ知っている子やお話上手な子と会うと、我が子の言葉数の少なさなどに不安を感じることもありました。3歳という年齢の今、大切なこと「感じること」知識をふやすよりも、体・心で感じとる力をのばして欲しいと思いました。たくさんの自然とふれあい、いろいろなお友達と交わり、人の気持ちを考えたり、自分の気持ちをはっきりと伝えられる子になってほしいと思いました。

### あやめ赤 崎野 直子

貴重なお話をありがとうございました。自然の素晴らしさ、親子で色々な体験をしたいと改めて思いました。最近、はやくはやくとせかしてしまう事が増えたので時間も心もゆとりが持てるようにしたいと強く思いました。

### あやめ赤 沼田 尚子

幼児期に大切な事を再認識する時間になりました。自然の美しさや季節ごとの変化に何かを感じられる心豊かな子でずっといてほしい、という思いと、親としても、日々の忙しさで子供の大切な発見を軽視してしまわないよう、心に余裕をもって子供と共に楽しみたいと思いました。

### あやめ赤 丸尾 典子

上遠先生のお話しをお聞きし、これからはもっと子どもと一緒に自然に触れ合い、一緒に感動を分かち合いたいなと心から思いました。そして、そこから「どんな小さな生命でも大切だ」と思う心を持つ子に育って欲しいです。



### あやめ赤 湯浅さやか

日々の子育てに追われ、つい子どもに「早く早く！」と言ってしまっています。子どものペース、感じることを大切にと、改めて自分に言い聞かせる良い機会になりました。子どもの目には私たちが忘れていた大きな広い世界が広がっていることを大切に一緒に感じていきたいと思えます。

### あやめ赤 吉井まゆ子

幼稚園へは、大人が歩けば5分のところを娘と何倍もの時間をかけて散策しながら歩く毎日です。子どもは、大人から見たら本当に何でもない自然の営み（朝は閉じていたたんぽぽの綿毛が、帰りには丸く全開していたり、あじさいの花にみつばちがとまっていたり…）に心の底から、新鮮で満たされた表情を見せてくれます。すっかり大人になってしまった私に、もしも子どもの存在がなかったら、このように日々自然を感じることや気づきはなかったのではないかと思います。

しかし、その小さな大切な時間を、幼稚園に遅れるからとせかしたり叱ったり…講演会で本当に反省しました。上遠先生のお話を聞いた幼稚園の帰り道は、娘といつもよりたっぷりのんびり時間をかけて帰りました。子どもの豊かな感性に尊敬の念を抱きます。今回このようなお話を聞かせていただいたことに感謝いたします。

### あやめ白 太刀鉾夏子

沢山の事を学べる充実した時間になりました。色々感じ、何度も涙が出ました。上遠先生はとても素敵な方で、お話もわかりやすく楽しみながら聞けました。レイチェル・カーソンさんの本を色々読んでみようと思います。ありがとうございました。

### あやめ白 辻 弘美

上遠先生の講演を拝聴し、自然との触れあいの重要性を再認識いたしました。人工的に造られた物ではなく、自然そのもの（本物）に触れさせ、息子の視線の先や指先にあるものに目を向け、共にワクワクを共有していきたいと思えます。野毛山幼稚園には、子どもたちが体と五感を動かしのびのびと外遊びできる素晴らしい環境を与えていただき、とても感謝しております。



### あやめ白 西 朱子

物の豊かさではなく“内面の豊かさを育む”この言葉は私が前から大切にしていた事で、これで良いんだと自信になりました！子どもは子どもらしく、遊んだり自然の中で体験する事が種となっていく、シンプルな事が大切だった事がわかりました。私ももう少し制限をなくして、待つ子育てをやっていきたくと思えます。上遠先生の優しい声は心が和み、言葉がすっと入っていききました。素晴らしい講演が聞けて良かったです。ありがとうございました。

### あやめ白 林 晶子

我が家の子どもたちは三人姉妹で、上の二人はもう中学生です。中学受験を考え受験塾に行くと、低学年のうちには机上の勉強ではなく、とにかく自然を観察したりして五感を使った体験が大切ですと言われ、塾なのにそんなことを言うのだと考えさせられた事があります。そして実行に移してみましたがその先の勉強の知識を入れたいことを意識してしまい、親だけがおおげさに振る舞い、本人たちには何を感じられたか疑問に終わってしまいました。センスオブワンダー、自らが感じとる大切さを改めて思い、反省しました。

娘たちの父は写真を撮るのが趣味でよく山へでかけます。一緒についていくと昼間は心地いい風が吹く山が、夕方になるとなんだか不気味な風が変わり、周りの音もさみしい音に感じられたのを思い出しました。大人でもいつもと違った感じにのみこまれる不思議さを体感できました。三人もいるとなかなか連れて行けないと頭が固くなっていましたが、本を読みお話を聞くにつれ、ふと連れて行きたくなりました。

主人が写真集を作った時、素敵な編集者に出会いました。もう何年もお世話になっていますが、その方はいつでも楽しそうに主人の写真を一生懸命見てくれます。ただ写真が好きとかではなく、その写真の場所に一緒にいるかのごとく感動してくれます。こちらも楽しくなります。その方に接して思うことは、いつでも感動できる心をもつことの大切さです。仕事でも趣味でも人生を豊かにできるのはこの心だと思っています。人工的なゲームなどの遊びからではなく、自然の楽しさを味わえたら本当に心から楽しいと思えるのかもしれないと思えました。小さい時からいろいろ感じ取れるこころの豊かさははぐくむことはとても大切だと今回再認識させていただけ、とても有意義でした。ありがとうございました。

あやめ白 松浦佳奈子

日々の子育ての中で、自然への触れ合いの大切さや、待つことなど、あらためて大切さを認識しました。わかってはいるが、日々の忙しさ、大変さで忘れがちなことを思い出させてくれる良い機会、素晴らしい講演でした。ありがとうございました。

あやめ白 森本やよい

映画「センス・オブ・ワンダー」では、美しい映像の中で上遠先生の優しい読み語り心地よく、目を閉じると壮大な自然の中にいる様な感じがしました。鳥のさえずり、波・風・雨・氷…様々な音が聞こえてきます。気が付けば、心穏やかで涙が溢れる自分がいました。日々慌ただしく過ごす中で、ゆっくりと流れる時間を忘れていました。

息子と一緒に自然に耳を傾け、四季の変化を感じながら通園できる喜びを大切に過ごしていきたいと思います。そして「待つ」気持ち、感動を共にできる心を持ち続け、生き生きとした母親でいたいです。

講演後、同じ事で共感したお母様とお話しました。余裕がない時、子どもの声を聞いてあげられていない時は声をかけ合おう！と決めました。合言葉は「センス・オブ・ワンダー」。

つくし赤 井ノ口志津

上遠先生の優しく温かなお声が、今も頭の中に響いています。先生のお話を聞いて、子どもが自然に触れて感じる気持ち「センス・オブ・ワンダー」はとても大切なのだと改めて思いました。私事ですが自分の都合で子どもに制限をかけてばかりで、全く子どもの気持ちを尊重できていないことを改めて反省しました。子どもには子どもの時間、リズムがある。そのことを踏まえて、もっと子どもの目線に合わせ寄り添いながら成長を見守りたいと思います。本日はこのような素晴らしいお話を聞かせて頂いたことに感謝いたします。

つくし赤 沼尻 紀子

日々の時間に追われ、つつい親のペースで過ごしてしまいましたが、子どもには子どもの時間があり「子育ては待つこと」という上遠先生のお言葉にはっとしました。大人にとっては何てことない毎日通る道でも、お花をつんだり石を拾ったり虫をながめたり…子どもにとっては毎日が発見で新しい世界なのだ改めて思いました。幼稚園で見つけた小さなお花を先生に可愛らしい花束にさせていただいて、ママにプレゼント！ととびきりの笑顔でくれる娘の顔を思い出しながらお話を聞いていました。これからもっともっと子どもの心に寄り添い感動を共有していきたいです。帰り道一緒に空を見上げたくくなりました。

つくし白 岩瀬菜穂美

「子どもの時間」子どもがじっくり何かをしている時「おとなの時間」でせかせせず、待つことが大切。ハッとさせられました。待つ。そして不思議に思う、楽しいなど感情を共有する。つい「おとなの時間」を優先してしまいましたが、しっかり心の土壌を耕すために、幼い今、たっぷり子どもと共感することを共有し「おとなの知恵」で上手に時間を使いたいと思います。美しい映像と上品な上遠先生の声がとても心地良かったです。

つくし白 横山 礼

我が家では今現在、デジタルの生活にどっぷりとはまっけていて、自然とふれあう事の重要性を主人と話しています。そんな中、子どもがたけのこをとってきたり、毎朝の通園の中でとかげを探る事が日課になっており、親として大切な時間を子どもたちに与えるのを忘れていた事に気付きました。そんな中での“センス・オブ・ワンダー”の先生のお話が、私の背中をぽんと押されました。この大切な我が子たちの幼児期と一緒にどろどろになる気持ちで楽しみたいと思います。何が大切なのか迷う事がこれから沢山あると思いますが、やわらかい気持ちで育児ができるように少しでも努力していけたらと思います。

**もみじ赤 大内 珠絵**

子どもが色々な対象に対して、見て触れて感じて、どうしてかな？おもしろいなどたくさんの感想を持てるように、一緒に体験しようと思っていました。もちろん自然だけではなく、友だちや人とのかかわり、世の中のこと、広い視野を持てるようになって欲しいです。先生のご高齢とは思えない話しぶり、レイチェル・カーソンを日本にもっと知ってもらいたいとの思い、感服しました。決して難しくならず、就学前に感じ経験することの大切さ、本当にそうだなと思っていました。貴重なお話を聞けてありがたく思いました。

**もみじ赤 大澤 克美**

自然に触れ、感じることの素晴らしさ。子どもたちに今、ぜひ伝えなければと思いました。自然を共有して、彼らとたくさん会話したいと思いました。やはり、人も動物も同じ自然の中にあること（還ること）が本当の幸であり、彼らのアイデンティティーを確立する為に必要な根の部分なのですね。様々な不思議を、自分の考えを持って、生きていける人になりますように。素晴らしいお話を、気づきをありがとうございます。

**もみじ赤 黒澤 聡子**

センス・オブ・ワンダーを読んで、私もこのような子育てをしてみたいと感動し、上遠先生にお会い出来るのを楽しみにしていました。上遠先生が大切にされ、これまで伝えられてきたことが、毎日野毛山幼稚園の先生方が子ども達と一緒にして下さっていることと重なり、改めて娘のおかれている環境を幸せに思いました。自然豊かな登園通路、公園で過ごす毎日、私達親子にとって当たり前のような時間になっていましたが、残り1年もない道、園生活なのだなど改めて思いました。ゆとりをもって娘と自然、感動を共有し、巫樹子先生のおっしゃられていたように、子どもを見るのではなく、一歩引いて子どもの見ている物を一緒に見られるように子育てしていきたいと思えます。素敵な時間をありがとうございます。

**もみじ赤 内藤 玲子**

色々な事情から、立ち止まって見守る事が出来ていないと反省しました。私も感性をみがきながら、子供と一緒に過ごす時間を大切にしたいと思えます。振り返った時「あの時はこんな事言ってたなあ」とクスッと笑える事が出来る様に、楽しい日々を作りたいです。

**もみじ白 川崎 聖恵**

娘と歩いて登園するのが好きです。レモンバームの匂いをかいだり、つぼみの花の色を予想したり、どくだみの花が宇宙人だったらどうしようと想像したり、たんぼぼの綿毛を飛ばしたり・・・。小さな自然とふれあうささやかなひと時です。本日、講演会に参加して、この時間がますます愛しくなりました。卒園まで大切にしようと思えます。素敵なお話をありがとうございます。

**もみじ白 飯田 英子**

自然には自然の、子どもには子どもの時間がある。自然や子どもから学ぶことは多いと思いたちながらも、つい自分の都合を優先してしまいがちです。思い通りにならない時間を一緒に楽しみ、子どもの目を通して今一度新鮮な気持ちを感じたいと思いました。いくつになっても新しいものと出会えるチャンスはある！と教えていただいたので子どもと一緒にたくさんの感動を発見したいです。

**もみじ白 多和田哉子**

上遠先生のお話を聞くのは2度目になります。今日は、森の豊かな自然を映像と共にお話を聞くことが出来、自然から得る豊かな感受性の大切さが更に素晴らしいものだという事を改めて感じました。日々生活の中でどうしても大人のリズムになってしまいがちですが、子供の気持ちも大切に、自分自身に余裕を持った子育てをしていきたいと思えます。また自然と関わる事は子供だけでなく大人も育てられるものだと考えさせられました。

**もみじ赤・あやめ赤 則久 直子**

子どもにとって大切なことと思っても、実行することがあまりなかったことを改めて気付かされました。遅まきながら、そういった自然とふれ合う時を親子で大切に意識して持ちたいと思えました。気づきをありがとうございます。



### もみじ赤 伴 慶子

講演会に先立ち「センス・オブ・ワンダー」を読みました。豊かな言葉の中にたくさんの気づきがあり、講演会を心待ちにしていました。

幼児期があつという間に過ぎてしまうけれども、親子ともにかけがえのない大切な時だということ、私自身15歳になる長男の子育てを通して実感しています。多感な時期ですが、幼いころに共にしたいろいろな経験や思いが信じる力になっています。

こどもを「待つ」気持ちを大切にしようと思います。「待つ」という余白から、大切なものが生まれることがたくさんあると、改めて感じました。

幸運なことに、私たち野毛山幼稚園の保護者は、自然の中でたくさんのわくわくする遊びを体験し、五感を豊かに育ていける幼稚園に子どもたちを守られ、導かれる環境にあります。

ともに関われる親であるために、自分に目を向けますと、年齢とともにあきらめや不満が増えてきて、余裕がなく、物事に対して鈍感になりがちです。けれども、子どもをとおして蘇る自分の感性に気づき、子どもと共感する体験を重ね感性を磨いていくことができれば、自分育てもできるという希望が芽生え、より楽しく子どもと向き合えそうな思いです。

外の世界の変化に惑わされず、命豊かに生き抜いていくヒントをたくさんいただきました。感じる心を大切に、想像力を豊かに、今の思いを振り返るようにしたいです。

上遠先生には愛情たっぷりお話いただき、また次回の講演会を待つ身です。

### もみじ赤 長嶋美也子

子ども時代に自然に触れ、様々な不思議と出会い自分で考えることの大切さに、改めて気づかせていただきました。すっかり残念な大人になってしまった私も、まだ遅くはないと信じ、子どもと一緒に身近な自然と触れ合い、子どもと同じものを共有したいと思います。

### もみじ白 秋元 開未

私自身が子どもの頃のことを思い出しながらお話を聞いていました。なまずを捕まえたり、ざりがにの別荘(?)をつくったり、蛇やコウモリも捕まえた様な・・・今思えばよくやったなあという事ばかりですが、たくさんの友達との共同作業、とにかく楽しかった思い出です。貴重な体験だったんだなと思いました。娘はそんな私と違い、お花やダンゴ虫が好きです。よく見つけては両手に持ち、嬉しそうにしています。幼稚園ではそのお花をかわいい花束にして頂き、お帰りの時に私にくれます。上遠先生がお話された「経済面の豊かさではなく、心の豊かさを大切に」という事に、全くその通りだと共感しました。娘がどんな思いでお花を摘んでいるのか、その気持ちを大切にしたいと思いました。

### もみじ白 菊原 理恵

3年ぶりの出席でしたが、とても満ちた気分になる幸せな時間の講演会でした。上遠先生の天使のような可愛い子どもという言葉にハッとさせられました。まだ小さな赤子、授乳中、よちよち歩きときは我が子のことを天使だわと思っていました。しかし今では毎日怒ることばかり。どうしてこうなのかしら、何度言っても子どもたちは朝からお着替えしないし、兄弟喧嘩も多いし・・・と悩みのつきない日々。でも改めて待つことの大切さ、目配りをしながらも野放しがい、カタにはめない、のびのび育てると今回学びました。子育てを始める時に夫婦で考えていた理想の形を思い出させていただきました。

講演会のあとの夕方は雨上がりでしたが、いつものように子どもたちと野毛山公園へ行きました。次男はこの頃、四つ葉のクローバーを探すことが大好きです。この日は初めて五つ葉のクローバーを見つけました。調べてみると六つ葉、七つ葉もあるそうです。私も子どもたちも今までの人生で初めて見た五つ葉なので、しおり作りに気合いが入ります。どんなデザインにしようか相談するのも楽しみです。キラキラした日々を過ごせるようにこれからも経験を重ねていけたらいいなと思いました。

そして、亜樹子先生の最後のお言葉で心に残ったのが子どもを見るのではなくその先を見るということ。心がけたいなあと感じました。

センスオブワンダーを教えて下さった上遠先生、このような素晴らしい講演会を開いてくださった園長先生、亜樹子先生に感謝の気持ちでいっぱいです。本日は本当にありがとうございました。

### ひまわり 小島 淳子

急かしてばかりの日々に猛反省した 6 年前、子どもならではの視点や純粋な気持ちに寄り添って過ごそうと誓った 3 年前、そして、子ども達に安心できる未来を残してあげたい、という思いを新たにしたい今回。3 度にわたって拝聴することができた上遠先生のお話は、癒しの中に力強さを感じ、その時々で新たな感覚を目覚めさせてくださいました。自然の神秘、命の大切さを、心から感じることでできる人に育てていけるように…改めて親としての責任を感じています。素晴らしいライフワークを続けていらっしゃる上遠先生に、尊敬と感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

### ひまわり 鈴木 亜矢

子どもには子どものリズムがある。つい大人のリズムに合わせさせようとしてしまいますがそのような時はひと息ついてこの言葉を思い出し待つことが大切だなあと改めて感じました。子どもの発するつぶやきなど聞き逃さぬようもっともっと歩み寄り子どもとの時間を大切にしたいと思いました。私の子どもは卒園してしまいましたが通園中の皆さま、野毛山幼稚園でたくさんどろんこになって下さい。

### ひまわり 伴 佳代

上遠先生のお話を聞くたびに子育ての原点に戻る気がします。そして何度聞いても心温まります。それは、「子どもに与えたいものは、頭でっかちの知識だけではなく自然の中での生きる力、命の大切さを感じてほしい」と言う母親の本能にある子育てだからなのかもしれない。情報が溢れ、慌ただしく生きる今だからこそ忘れてはならないと改めて感じました。そして、我が子たちと今のうちに一緒に行動し共感し、大人になってからも色あせない豊かな思い出をあたえてあげたいと思いました。

### ひまわり 佐藤 祐子

前回、上遠先生のお話を聞いたのは娘が年少の時。センス・オブ・ワンダーの世界観、根底に流れる考え方に触れ、とても感動しました。今年の 3 月まで、野毛山幼稚園というこの本の精神を大切にしている環境で過ごさせていただき、多分に甘えさせていただきました。そして今回は小学生になったばかりというタイミング。今まで園に多く頼っていたと改めて実感しました。これからは家庭でその精神を見つめ直し、取り入れていかなければと思いを新たにしました。とてもいいタイミングで、再び上遠先生のお話を聞く機会を与えていただけて感謝しております、ありがとうございました！

### しいのみ・チューリップ 北迫 真弥

保育講演会で上遠先生のお話を聞かせていただきありがとうございました。今回で 3 回目になりますが、何度聴いても新鮮な気持ちで、大切なことに立ち返れます。今回は、「いのちに軸足を置く」という言葉がとても心に残りました。娘はいまだにダンゴムシが大好きで、先日、筆箱から 3 匹出てきました。私も子どもの頃、虫が大好きで、見つけたカマキリの卵が神秘的で、大切に虫かごに入れておいたら一気に孵化して、そこら中、カマキリの赤ちゃんだらけになってしまった記憶が蘇ってきました。87 のおばあちゃんになられても、まだまだ吸収できることがたくさんある、と、キラキラした笑顔でおっしゃっていた上遠先生は、本当に素敵な方ですね。ありがとうございました。

### まとめ・文責

### 広報委員もみじ組

秋元 開未 飯田 英子 黒澤 聡子  
高橋 佳奈 長嶋美也子

